



転がるかな…

こうやって
つなげるねん



できたあ!
先生見てて

エピソード

H児とR児と一緒にクレーンコースをつくり、転がすのを楽しんでいましたが、思い思いに触るとすぐ壊れてしまいます。「こっちにつなげたいねん」というH児。「Rくんはどうしたい?」と保育者が聞くと「長いのが転がしたいねん」と言い、少し考えてから「ぼくはこっちでつくるから、Hちゃんはこっちでつくって」と言いました。それぞれでつくることになり、R児は黙々と、H児はR児の様子が気になり時折ちらちらと見ながら組み立てていました。H児が「どうやって長くつなげるん?」と聞くとR児は「高いのつくってからだんだん小っちゃくしてつなげていくねん」と答えました。H児は「そうなんや…」とつぶやき、やってみたけれどうまくいかない様子でした。R児は、時々ビー玉を転がしては何度も調節しながらつなげると「できたあ!先生見てて!」と目を輝かせて保育者に伝えました。ビー玉を転がしてみると…見事、最後までビー玉が転がりました。「やったー!」とR児。「すごいね!大成功だね」と保育者も喜び、見ていたH児も「えーRくんすごっ!僕もやらせて」と言いました。するとR児は得意そうに「いいよ。やってみ!」といました。

保育者の思い

- ・友達と一緒に遊ぶ中で、友達にもしたい気持ちがあることを知ったり、自分のしたいことを友達に言葉で伝えたりしてほしいと思っています。必要に応じて言葉を補ったり、遊びを見守ったりするようにしました。
- ・失敗しても何度も挑戦したり、友達の姿を見て学んだりする力をつけてほしいと思います。そのために励ます、褒める、一緒に喜ぶなどしたり、友達の姿に目を向けられるような声をかけたりしていきたいです。
- ・友達と共感しながら一緒に遊ぶ楽しさが感じられるように、保育者も共感して遊びを楽しんでいます。

子どもの育ちや学び

- ・友達のしたいことがあることを知り、自分のしたいことも言葉で伝えて、お互いが楽しく遊べる方法を考えることができました。
- ・保育者と一緒に遊び、高低差を考えて転がせた経験が自信をもって遊びを楽しみ、友達にも教えてあげる姿にできていました。
- ・保育者や友達に褒めてもらい、自分の遊びに満足すると、友達と一緒に楽しさを共有して遊ぼうとする気持ちにつながっていきます。

家庭だったら

黙々と何かに取り組んでいる時は、そっと見守ってみてください。その後の「できたあ!」と言った時の表情は何とも言えないキラキラした顔が見られると思いますよ。そして、その瞬間を逃さず一緒になって喜んだり、思いきりほめたりしてあげられるといいですね。きっと、「また何か頑張ってみようかな」という気持ちになると思います。